

第2学年 社会科(地理的分野)学習指導案

展開学年：2年

1 単元名 「2節中国・四国地方―交通・通信とともに変化する人々の暮らし―」

2 単元について

【学習指導要領上の位置づけとねらい】

本単元は、学習指導要領に記載されている、地理的分野の「C日本の様々な地域－（3）日本の諸地域－②人口や都市・村落を中核とした考察の仕方」と「C日本の様々な地域－（3）日本の諸地域－④交通や通信を中核とした考察の仕方」の学習内容にあたり、日本を地域ごとに関し、それらの諸地域の様々な問題から地域の特色を見つける。②人口や都市・村落を中核とした考察の仕方については、地域の人口分布や動態、都市・村落の立地や機能に関する特色ある事象に視点を置き、そこに暮らす人々の生活・文化、産業などに関する事象と関連付ける。そして、人口や都市・村落が地域の人々の生活・文化や産業に深い関係性があることを考察させる。また④交通や通信が人口やその地域の産業にも影響を与えていることを考察させる。

【中国・四国地方の自然・環境】

「自然・環境」に関しては、中国・四国地方は本州の西部にあって東西に広がる地域で、中国地方には、岡山県、広島県、鳥取県、島根県、山口県の5県があり、四国には、香川県、徳島県、愛媛県、高知県の4県がある。中国地方の内陸部には東西に中国山地があり、この山地より北を山陰、南を山陽と呼んで分けられ、四国地方は、島の中央部を四国山地が走り北部を北四国、南側を南四国と呼ぶ。また、山陽と北四国を合わせ瀬戸内と呼ぶことも多い。総面積は5,073千haで国土の13.4%を占め、森林面積は、全国の15.3%、3,717千haであり、中国山地では、大山(1,729m)、恐羅漢山(1,346m)、蒜山(1,202m)など1,200～1,400m級の山々を連なる。四国山地では、石鎚山(1,982m)、剣山(1,955m)、三嶺(1,894m)などの1,500m～1,700m前後の山々があり、急峻な地形を形成し可住地面積の平均値は全国平均の四分の三ほどである。とりわけ徳島県下においては急峻な山岳地帯となっている。水系は、中国山地から発し、日本海に注ぐ河川として千代川、斐伊川、江の川、瀬戸内海に注ぐ河川として吉井川、旭川、太田川などがあるが、分水嶺が概ね山陽側と山陰側との各県境となっており、沿岸部から中国山地分水嶺までの距離が短く、比較的急峻な地形となっている。このため大雨が降れば、氾濫しやすく少雨となれば渇水となりやすい特徴を有している。四国では吉野川、仁淀川、四万十川などがあり、中でも吉野川は全国屈指の大河ではあるが、河川の9割が山地内に流れている。平野に関しては、全国の平野と比べると面積は狭いが、中国地方には広島平野、岡山平野、鳥取平野、松江平野など、四国地方は讃岐平野、高知平野、徳島平野などがある。讃岐平野や岡山平野などの瀬戸内の平野では、地形的特徴と気候的特徴が相まって、水不足が発生しやすいため、多くのため池を有しており、全国にある約15万カ所あるとされるため池のうち、瀬戸内地域に属するとされる岡山県(9,266個)、広島県(16,627)、山口県(7,617個)、香川県(12,269個)、愛媛県(3,118個)で計約5万個あり、全国の約三分の一を占める。また他地域ではあるが瀬戸内海に面する近畿地方の兵庫県、大阪府を合わせると約7万5,000個となり、全国の約半分のため池が瀬戸内に面

する都道府県にあり、水の確保に苦勞している地域であるとわかる。(令和6年8月30日農林水産省、中国四国農政局、森林整備センターより引用作成)

気候に関しては二つの山地によって日本海に面する山陰、中国山地と四国山地の間にある瀬戸内、太平洋に面する南四国に分けられ、それぞれ気候が変化している。山陰は北西から吹く冬の季節風の影響で冬季の降水量が多い。中国山地を境に北側で多く、南側で少ない傾向となり、中国山地以南では100~150ミリ程度の所が多いが、山陰を含む中国山地の北側を中心に多くでは、鳥取県のほとんどの所で400ミリを超える。中国山地と四国山地の間にある瀬戸内は、両山地がある結果、夏・冬とも季節風の影響を受けず、年間を通じて降水量が少なく温暖な気候になっている。梅雨明け後、太平洋高気圧の勢力が強いと毎日暑い晴天が続き、猛暑日となる日も多く、盛夏期の瀬戸内沿岸では、夕方から夜にかけて海風が陸風が変わるために一時的な無風状態となり、耐え難い暑さの「瀬戸の夕なぎ」という特異な現象が現れる。また、瀬戸内側では古くから少雨対策として「ため池」が作られた。最後に南四国は、太平洋の黒潮の影響で年間を通し温暖な気温になり降水量が多く、特に夏季には台風の影響もあり非常に降水量が多くなり、平年では6月5日ごろに梅雨入りし、7月17日ごろに梅雨明けとなり、月~7月は梅雨前線の影響で9月と並んで降水量が多くなる。(令和6年8月31日 気象庁中国地方の気候より引用作成)

これらのことを参考にして中国・四国地方特有の自然・環境が人々の生活様式や産業にどのような影響を与えているかを考察していく。

【中国・四国地方の産業】

「産業」に関しては、農業・漁業・工業を中心に考察する。

まず農業に関しては、中国四国農政局の統計データである中国四国農林水産業の概要(令和5年度4月28日更新)によると耕地面積が約36万haで中国・四国地方の総面積の約7%を占める。総面積に占める耕地面積の割合は日本の7地方の中で一番低い。さらに、耕地利用率は平成3年(1991年)が中国・四国地方全体で約90%を超えていたが、令和3年(2021年)では70~80%を推移している。また、農家の数は全体で28万3000戸になっているが、平成2年(1990年)が61万7000戸から半減している。さらに、深刻な問題は農業従事者の60歳以上の割合が約90%になっていることだ。これらの問題は今回の重要なテーマでもある人口や都市・村落を中核とした考察に大きく関わるもので、生徒一人一人に真剣に学ばせるべき課題である。

また、各地域の農業の特徴として山陰では、鳥取県の二十世紀梨や鳥取砂丘の地形を生かしたらっきょう作りが盛んである。瀬戸内では、気候が農業に大きな影響を与えており、年間を通して降水量が少ないため、水が少なくても育てることが容易なブドウやモモ、ミカンの栽培を行っている。そして、南四国では日本海流の影響により年間を通じて温暖な気候であるため、促成栽培を中心に農作物を生産しており、なす、ピーマンなどがある。

次に漁業では、中国四国農政局の統計データである中国四国農林水産業の概要(令和6年8月31日更新)によると中国・四国地方全体で約15,600経営体があり、全国の約20%ほどである。また、漁業従事者数は約25,000人と全国の約17%を占める。この漁業従事者も農業従事者数と同様に77,000人ほどいたが、約三分の一にまで減っている。これも、交通機関の発展や人口減少の影響が大きい。漁業とはあまり関係はない更科地域の本校では、人口減少や交通網という共通点もあるので、その点から考察させていく。

最後に工業について、中国・四国地方の工業地域は瀬戸内工業地域である。瀬戸内工業地域でどのような工業が盛んかという点、尾道市、呉市、今治市で盛んな造船業、周南市・岩国市・新居浜市・倉敷市の水島地区の石油化学、水島・福山市の鉄鋼業などの重化学工業が中心となっている。岡山県南部と愛媛県東予地区が新産業都市に、備後地区・周南地区が工業整備特別地域に指定されていた。瀬戸内工業地域の発展の要因としてあげられるものは、瀬戸内海の水運を始めとして交通が便利な点、沿岸の埋立により工業用地が得やすい点、内海のため波が穏やかである点を背景として、第二次世界大戦後に急速に発達している。今回の授業を通しては、交通の便のみに注目せず人口の集中による工業の発展も考察の一つに入れていきたい。この瀬戸内工業地域を含む瀬戸内地域が日本の地方区分は本来8地方区分であるのにも関わらず、中国地方と四国地方を合わせて7地方区分で学習する要因の一つであると考えられる。

【中国・四国地方の人口】

「人口」に関しては、中国・四国地方の人口は約1,122万人と全国の約8.8%を占める。地域の人口の分布や動態、都市・村落の立地や機能に関する特色ある事象と関連付けて、人口や都市・村落が地域の人々の生活・文化や産業などと深い関係を持っていることを捉えさせたい。また、少子高齢化が進行している日本においては、それに伴う社会保障制度や介護福祉制度の見直しなど、様々な事態に直面している。また、中国・四国地方でみると、南四国や山陰では若者が都市に働きに出ることで、地方での働き手や後継者が見つからないなどの過疎化の問題に直面している。一方、瀬戸内の都市部では過密が進むだけでなく、出生率の低下による人口減少の二重構造に陥っている。この中国・四国で起こっている人口減少の問題は現在、更科地域が抱える大きな問題点であり、共通する点があるので、重点的に学ばせていきたい。そのため「人口減少が進む中で、これからどのように町おこし・村おこしをするか」という学習課題を設定し、中国・四国地方が抱える都市・村落の特色を、都市部と山間部や離島との間で見られる地域づくりに向けた取組を比較しながら多面的・多角的に考察させる。その活動を通して、都市・村落のそれぞれのよさや課題に気付くことで、その理由や対策を捉えながら地域の特色を考えさせ、自分たちの生活する地域にも思いをはせるよう学習させていきたい。また、将来どの地域で暮らすことになっても、その地域のよさや課題に気づき、これから自分たちが更科地域をどのように活性化させていけるのか、各自が根拠をもって提案できることを目指したい。

【中国・四国地方の交通・通信】

「交通・通信」に関しては、交通網の発展によるメリット・デメリットを中心に考察する。

1970年代の中国・四国地方は中国山地、四国山地、瀬戸内海など交通の妨げになる障害があった結果、地域的な交流が難しい地域であった。しかし、中国地方では1972年の山陽新幹線の開通を皮切りに、1983年の中国縦貫自動車道の開通、その後、次々に山陽自動車道や山陰自動車道の部分的な開通などが次々に整備されていった。四国地方においても、徳島県から香川県を結ぶ四国縦貫自動車道1985年に部分的開通を果たしている。これらはそれぞれ、中国山地、四国山地、瀬戸内海に沿った東西の交通網の発展であり、山地や海を越えての南北での交通網の発展は1988年の本州四国連絡橋のうちのひとつである児島・坂出ルートの開通である。この開通をもとに、1998年に神戸・鳴門ルート、1999年に尾道・今治ルート(通称：瀬戸内しまなみ海道)が開通で、本州四国連絡橋の事業は完成した。さらに、中国横断自動車道の計画も着実に進み、1991年に広島浜田線、1997年に岡山米子線、

2015年に尾道松江線、2022年に姫路鳥取線のほぼ全線が開通しており、東西、南北での移動が可能になっている。交通網の発展による交流人口の増加は如実に数字に表れており、山陽自動車道では、1998年に一日当たり約19万台だったものが、2016年には約24万台と約1.3倍に、本州・四国間の自動車交通量は、1984年に一日当たり16,951台だったのに対して、2019年が58,483台と約3.5倍になっている。これらの利用者数の増加により、他地域への通勤通学の増加、各地域の特産物の大都市への輸送、工業製品の輸送、大都市への移動の短縮など大きなメリットを有している。一方、デメリットや改善点もあり、大都市に移動しやすくなった結果、ストロー現象、地方の人口流失による過疎化などのデメリットも起きている。さらに、高知県に関しては、四国横断自動車道の整備計画があまり進んでおらず、地方内でも交通網に関しては格差が生じているのも問題である。

こうして現象は、更科地域にもあてはまることも多く、交通網の発展によるメリット・デメリットについて資料などを提示し、どのように交通・通信をどのように町おこし・村おこしに影響を与えていくかを考えさせる。

【更科中学区】

更科中学校区は昭和22年更科村立更科中として開校、昭和30年に白井村と合併し泉町立北部中となり（南部中＝白井中）、昭和38年に千葉市と合併し現在に至る中学校である。また更科小学校との一小一中であり、千葉市に三校しかない小中一貫教育校の一枚である。

学区の大きさは、千葉市北東の端、四街道市・佐倉市・八街市に隣接する農村地帯で、12の町にまたがり、その広さは、美浜区とほぼ同じ面積を持つ広大な学区である。

更科中学校の人口は千葉市の中で一番人口が少ない地域である。令和6年6月現在の住民台帳によると、若葉区の総人口が147,126人に対して、更科中学区の12町の総人口が4,375人と非常に少ない。また、年齢別人口に関しても、0～14歳の人口が290人、15歳～64歳が2,201人、65歳以上が1,884人である。65歳以上の高齢者の人口が、総人口の約43パーセントに達し、限界集落に突入する一歩手前である。また、14歳以下の人口も290人いるが、学区外申請などを行う生徒も多いことがわかる。例えば、下田町や谷当町、旦谷町の三町は14歳以下の人口が93人いるが、多くが千城台南中学区に学区外申請を行い登校している。更科地域の年齢別人口分布状況は中国・四国地方の過疎地域と似ており非常に共通点が多い。また、更科地域は千葉市の市街化調整区域に含まれており、これ以上の宅地開発は難しく、人口増加を行うことは困難な地域である。

更科地域の交通網に関しては、まず自動車路線については御成街道が中心を通り、東金市、八街市と千葉市を繋げる重要な路線になっており、また2012年に整備され開通した千葉県道66号浜野四街道長沼線のバイパスである浜野四街道長沼バイパスは非常に交通量が多く、佐倉市や四街道市から千葉市の中心街をつないでいる。自動車路線に関しては整備されている一方、鉄道、バス路線の整備は進んでいない。鉄道に関しては最寄り駅が千葉都市モノレールの千城台駅、またはJR外房線の鎌取駅、JR総武本線の八街駅、JR総武本線の都賀駅というように鉄道を利用しての移動は非常に不便である。バス路線はおまごバス、さらしなバスが整備はされているが、本数が少なく1時間に1本程度しか走っておらず、移動に関しては非常に不便である。

最後に観光資源などについては市街化調整区域に指定されており一級河川である鹿島川の穏やかな流れに寄り添う谷津田、富田さとにわ耕園・千葉ウシノヒロバナなど懐かしい日本の古き良き田園風景が広がり、千葉市版グリーンツーリズム「ちばのさと」・いずみグリーンビレッジ構想の中核として、

都市部と農村部における人・物・情報の交流を促進し地域の活性化をめざした地域である。また農業は盛んな地域であり、ニンジンや玄米などの生産を行っている。このように観光資源は自然環境を生かしたものが多く、中国・四国地方の町おこし・村おこしと共通する部分も多く、関連付けさせることができる項目も多い。

【本時の扱い】

中国・四国地方と更科地域には多くの共通点が多く、他地域で扱うよりも生徒自身が考察しやすい。例えば、人口では、少子高齢化の傾向や限界集落になりつつある現状などについて、交通・通信では、交通網が発展している場所としていない場所の産業の発展の具合や人口分布の差など、産業については、農業が盛んである点など数多くの共通点を見つけることができる。この中国・四国地方の共通点を更科地域に当てはめて考えさせていく。

また、更科中学校では総合的な学習の時間を用いて、更科地域の歴史・自然・福祉について1年生～3年生までの三年間かけて自分が調べたいテーマをフィールドワークや文献調査を行っている。例えば、歴史は御成街道や御茶屋御殿、更科地域から出土する土器など、自然は鹿島川に住む生き物、絶滅危惧種、水質調査など、福祉は更科学区の危険個所や、ごみ問題などを研究している。この研究結果をうつしの祭と呼ばれる文化祭で地域の方々や小学生などに発表をしている。小学生の時から更科地域の様々な特徴を理解しており、町おこし・村おこしに活用できる事例をもっている状態である。この総合的な学習の時間で得た知識を用いて、教科横断的に今回の授業を展開していく。

3 本校研究主題との関連

本校社会科の研究主題は「自ら学び、深く考える力を育てる学習指導の工夫—多面的・多角的に考え、伝え合う学習活動を通して—」を踏まえて、単元における基礎的な概念をもとに、自ら課題の解決策を考え、他者に伝えていくことを基本とする。伝え合う学習活動として、ギガタブの「ふきだしくん」というソフトを用いて展開をしていく。

4 生徒の実態

【1】中国・四国地方について何か知っていますか？

知らない(6名)、うどん

【2】日本で人口の多い都道府県と人口の少ない都道府県を書いてください。(複数回答可)

多い都道府県 東京都(7名)、大阪府 少ない都道府県 沖縄県(2名)、福井県、徳島県、秋田県、富山県

【3】限界集落というのは何歳以上の人が半分いる集落ですか。

○60歳以上 0名 ○65歳以上 6名 ○70歳以上 1名

【4】町おこし、村おこしで何か知っていることはありますか。

知らない(6名)、イベントを実施する(1名)

【5】更科地域は他の地域(白井・大宮・千城台)と一緒にあったほうがいいですか。

反対(3名)、少し反対(3名)、少し賛成(1名)

今回、授業で取り扱う、「町おこし、村おこし」を知っていますかという問いに対してほとんどの生徒がわからないと答えている。これからわかることはこの学級の生徒たちは過疎化の解決法に「村おこし・町おこし」が活用できることを知らないことに加えて、現在過疎化が進んでいる更科地域では地域として積極的な「村おこし・町おこし」を行っていないことも推測することができる。さらに、総合的な学

習の時間に行っている地域探求学習が村おこし・町おこしの一部になる可能性を秘めてはいるが、生徒自身にその自覚がないことも一因であろう。また過疎化を食い止める対策のうちの一つである他地域との合併について生徒たちの身近な地域である更科地域と他地域(白井・大宮・千城台)との合併についてアンケートをとったところほとんどの生徒が反対している。このことからわかることは自分たちが住んでいる更科地域に対する郷土愛を持ち合わせており、地域を大切にしたいが、どのようにかわっていくかがわかってはいない。また、更科地域の人口や学校の人数が増加してほしいとは思っていない生徒も多く、町おこし・村おこしを行う理由の人口増加の目的よりも、観光目的を中心に外部から人をたくさんよび、活発にしていくことを重点にして展開していく。

5 単元の目標

(1) 知識及び技能

- ①中国・四国地方の気候、産業について、人口や交通網の発展に着目し理解する。
- ②中国・四国地方について、その地域的特色や地域の課題を理解する。
- ③交通・通信を中核とした考察の仕方では取り上げた特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解する。

(2) 思考力・判断力・表現力等

- ①中国・四国地方の地域的特色について、都市と農村の変化を人々の生活や産業などに着目して考察し、表現する。
- ②過疎・過密地域のかかえる問題を具体的にとらえ、その解決が課題になっていることを考察し、表現する。

(3) 学びに向かう力、人間性等

- ①町おこし・村おこしに関して、自分たちが住む地域に関連付け、対策を主体的に迫及しようとする態度を養う。
- ②中国・四国地方について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとする態度を養う。

6 単元の評価規準

(1) 知識・技能

- ・中国・四国地方の三つの気候がそれぞれ南四国、瀬戸内、山陰の産業や人口に影響を与えていることを理解している。
- ・中国・四国地方の三地域のそれぞれの地域的特色やそれに伴う利点・欠点を理解している。
- ・交通・通信の発展が中国・四国地方に与えた影響の利点・欠点を理解し、その解決策などを理解している。

(2) 思考・判断・表現

- ・中国・四国地域の気候的な特徴、産業、人口などに着目し、その地域が抱える過疎化・過密化などの問題の解決方法について他地域を参考に考察、構想し、表現している。

(3) 主体的に学習に取り組む態度

- ・中国・四国地方の過疎化の問題を自分たちの住む地域の問題と関連付け、課題の解決を視野に主体的に社会にかかわろうとしている。

7 単元の学習計画

単元の学習計画 (○…評定に用いる評価、●…学習改善に用いる評価、★…ギガタブの活用)

時	主な学習内容	評価基準
1	<p>【単元を貫く課題】 交通・通信に着目し、中国・四国に与える影響を考えよう</p> <p>【第一時の課題】 中国・四国地方の自然環境から、人口の分布を考えよう！！</p> <p>導入</p> <ul style="list-style-type: none"> 中国・四国地方とイメージはどのようなものがあるか聞く。 特に地形の特徴が出るように <p>◇中国・四国地方をながめて (p.198～199)</p> <ul style="list-style-type: none"> 自然環境の異なる地域 二つの山地にはさまれた地域 交通・通信網の整備で変わる地域 	<p>●自然環境の異なる三つの地域、盛んな農業、人々の生活や産業を変えた交通・通信網の整備、瀬戸内に集中する人口などの特色を理解し、その知識を身に付けている。(知識・理解)</p> <p>○地域の人口を中核とした考察の仕方に基づいて設定した探究課題の答えを予測し、見通しをもって主体的に追究している。(主体的に学習に取り組み態度)</p>
	<p>【第一時のまとめ】 中国・四国地方は三地域に分かれ、地形上交通網が発展しやすい瀬戸内は人口が多い。</p>	
	<p>【第二時の課題】 中国・四国地方の交通網の発展から、人口の変化を考えよう！！</p> <p>導入</p> <ul style="list-style-type: none"> 三つの地域で一番人口が多く分布していた場所を復習形式で聞く。 どのような交通機関ができると人が集まるか聞く。 <p>◇交通網の整備と人や物の移動の変化 (p.200～201)</p> <ul style="list-style-type: none"> 地方内で深まるつながり 地方をこえて広がるつながり ストロー現象 	<p>●高速道路や橋が整備されたことにより、中国・四国地方内の結び付きや、他地方との結び付きが深まったことを理解している。(知識・理解)</p> <p>○交通網の整備を、移動時間の短縮やストロー現象などに関連付けて考察している。(思考・判断・表現)</p>
	<p>【第二時のまとめ】 交通網の発展は地域の交流を活発にさせるが、地方の人口減少のデメリットもある。</p>	
3	<p>【第三時の課題】 中国・四国地方の産業と交通網の関係を考えよう！！</p>	

	<p>導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中国・四国地方にどのような交通機関があったか復習形式で聞く。 ・この交通網を生かせそうな産業を聞く。 <p>◇交通網が支える産業とその変化 (p.202~203)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・瀬戸内の都市の歴史 ・海で結ばれた工業地域 <p>★全国に出荷される農水産物</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●人口が集中する瀬戸内の都市の多くが交通の拠点であった城下町を起源としたことを理解している。(知識・理解) ○海上輸送に適した瀬戸内海、橋や高速道路の開通によって工業や農業が発達してきたことを説明できる。(知識・理解)
<p>【第三時のまとめ】 交通網の発展は第一、二、三次産業のどれにもメリットがあり、地方の経済を活性化させる。</p>		
4	<p>導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通網が発展するメリットを復習形式で聞く。 ・中国・四国の人口分布を改めて確認しどのように差があるか聞く。 <p>◇活用される交通・通信網 (p.204~205)</p> <ul style="list-style-type: none"> ★町おこし・村おこし ・橋で変わる島の暮らし ・インターネットで変わる山間地の暮らし ★世界から地域に来訪、地域から世界に発信 	<p>【第四時の課題】 中国・四国地方の過疎化の原因と対策について考えよう！！</p> <ul style="list-style-type: none"> ○過疎地域が山間部や瀬戸内海の島々の多くに分布していることをその原因や対策とともに理解している。(知識・理解) ○過疎地域の対策について、交通・通信網の整備と関連付けて考察し、表現している。(思考・判断・表現) ○町おこし・村おこしを行う目的について理解している。(知識・理解)
<p>【第四時のまとめ】 過疎化の原因の一つに交通網の発展があるが、通信網を使い町おこしなどの過疎化対策を講じている。</p>		
5	<p>【第五時の課題】 中国・四国地方の特徴をまとめ、更科地域との共通点を考えよう！！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第四時までの学習内容をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○中国・四国地方の地域的特徴を、まとめることができる。(知識・理解)

	<p>◇中国四国地域と更科地域の共通店を見つけろ。 ★二地域の比較</p>	<p>○二地域の比較を行い、共通点を探し出し、発表することができる。(思考・判断・表現)</p>				
	<p>【第五時のまとめ】</p> <table border="0"> <tr> <td>1 過疎化が進んでいる地域</td> <td>2 農業や自然が豊かである地域</td> </tr> <tr> <td>3 交通・通信の格差がある地域</td> <td>4 郷土愛がある地域</td> </tr> </table>		1 過疎化が進んでいる地域	2 農業や自然が豊かである地域	3 交通・通信の格差がある地域	4 郷土愛がある地域
1 過疎化が進んでいる地域	2 農業や自然が豊かである地域					
3 交通・通信の格差がある地域	4 郷土愛がある地域					
<p>6 本時</p>	<p>導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・更科中学校の在校生徒数を確認、現状の更科の状態を発表する。 ・更科の現状を打開できることとは何か、考え発表する。 ・町おこし・村おこしについての確認する。 <p>◇更科地域の活性 ★観光客を増やす 町おこし・村おこしの政策</p>	<p>【第六時の課題】 更科地域に観光客を増やす村おこし、町おこしを考えよう</p> <p>○資料から過疎地域である根拠を見つけることができ、さらに現状を把握できる。(知識・理解) ○更科地域を活性化できる村おこし、町おこしを考え、話し合いを行い発表することができる。(思考・判断・表現)</p>				
	<p>【第六時のまとめ】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①地域にあった町おこし・村おこしを実施 ②高齢者の人が積極的にかかわることができる ③交通網・通信網の利用は町おこし・村おこしをする上で重要なツールである。 					

8 本時の指導 (6/6)

(1) 本時の目標

○更科地域が過疎地域である現状を資料から読み取り指摘できる。【知識・理解】

○更科地域を活性化できる村おこし、町おこしを考え、発表することができる。【思考・判断・表現】

(2) 本時の展開

★…ギガタブの活用

時間	学習内容と活動	指導上の留意点及び支援の工夫(◎) 評価項目 (○…評定に用いる評価、●…学習改善に用いる評価)
導入 5分	<p>○更科中学校の在校生徒数を確認、現状の更科の状態を発表する。 〈予想される生徒の反応〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口が減っている。 ・現在、在籍数が一番少ない。22名 ・過疎状態になっている。など <p>○更科の現状を打開できることとは何か、考え発表する。 〈予想される生徒の反応〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口を増やす。 ・人を呼び込みことをする。 ・町おこし、村おこしをする。など <p>○町おこし・村おこしについての確認する。</p> <p>○町おこし・村おこしの目的はなにか、更科地域にはどのような方法が適しているか発表させる。 〈予想される生徒の反応〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口を増やす目的 ・子育てがしやすい ・観光客を増やす など 	<p>●資料を読みとり、人口状況を理解することができたか。(知識・理解)</p> <p>○更科地域に必要なことを理解し、既習事項から答えることができたか。(知識・理解)</p> <p>◎第4校時で行ったことに関係があるということをヒントとして与え、「町おこし・村おこし」が出るように誘導する。</p> <p>◎町おこし・村おこしの中の目的をもう一度考えさせる。</p> <p>◎市街化調整区域の資料を提示し、人口増加の政策が難しいということを理解できたか。(知識・理解)</p> <p>◎町おこし・村おこしの目的を人口増加以外の観光目的に着目して、誘導させる。</p>
<p>学習課題 「更科地域の観光客を増やす村おこし、町おこしを考えよう」</p>		
展開 35分	<p>★個人で「ふきだしくん」に更科地域の村おこし、町おこしを打ち込む。(10分) 〈予想される生徒の反応〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特産物を作る。 ・観光案内をする ・地域の名所マップをつくる。 ・更科地区の歴史を広める ・地域にある農業関係施設(さとに 	<p>★ギガタブを利用し、個人で対策を打ち込ませる。</p> <p>○更科地域に必要な対策を自ら考えることができたか。(思考・判断・表現)</p> <p>○更科地域以外の地域を調べ、自らの対策に生かすことができたか。(思考・判断・表現)</p> <p>○様々な立場から多角的、多面的に町おこし、村おこしの政策を考えることができたか。(思考・判断・表現)</p> <p>◎対策が出ない生徒には総合的な学習の時間などのヒントを与える。</p>

	<p>わ耕園、ウシノヒロバ、下田農業ふれあい館など)とコラボするなど</p> <p>○班に分かれて、自分の考えた町おこし、村おこしを発表する。(15分)</p> <p>★班に分かれて、班で町おこし、村おこしを「ふきだしくん」に打ち込まれる。(10分)</p> <p>★町おこし・村おこしの実現性を考える。</p>	<p>◎高齢者でも行いやすいものか、どの年齢層の人ができるものか生徒に投げかける。</p> <p>◎更科地域でも実施できるかどうか、投げかける。</p> <p>○自ら考えた対策を発表することができたか。(思考・判断・表現)</p> <p>●話し合いを通して、多くの意見を出すことができたか(主体的に学習に取り組む態度)</p> <p>○過疎地域を活性化できる村おこし、町おこしを発表することができ、その考え方を自分たちの町でも使えることができるか考えることができる。また、実現性も考えることができたか。(思考・判断・表現)</p>
<p>まとめ 10分</p>	<p>○班で出た意見を発表する。</p>	<p>◎生徒の町おこし・村おこしをたくさん出し、まとめる</p>
<p>まとめ</p> <p>①地域にあった町おこし・村おこしを実施</p> <p>②高齢者の人が積極的にかかわることができる</p> <p>③交通網・通信網の利用は町おこし・村おこしをする上で重要なツールである。</p>		

(3) 板書計画

<p>更級中の現状</p>	<p>学習課題 「更科地域の観光客を増やす村おこし、町おこしを考えよう」</p>
<p>昭和 37 年 354 名</p> <p>令和 6 年 22 名</p> <p>→生徒在籍数が減少している。</p> <p>つまり、地域の人口が減少している</p> <p>↓</p> <p>過疎化の進行</p> <p>対策は</p> <p>町おこし・村おこし</p> <p>どの目的の町おこし・村おこしをするか。</p> <p>目的：観光客を増やすこと</p>	<p>各班の町おこし・村おこし</p> <p>まとめ</p> <p>①地域にあった町おこし・村おこしを実施</p> <p>②高齢者の人が積極的にかかわることができる</p> <p>③交通網・通信網の利用は町おこし・村おこしをする上で重要なツールである。</p>

9 思考の構造図

【事実に認識の第3段階】

諸地域の発展には、土壌や気候などの自然環境、歴史的な背景などを地域にする人々が時代や生活様式の変化に対応しつつ、自分たちの独自性を守り広めていく工夫や努力が必要である。

【事実に認識の第1段階・第2段階】

- A 交通網の発展により、地方内および地方外の人々の交流が多くなり、メリット・デメリットが発生した
- a 中国山地、四国山地に影響で山陰、瀬戸内、南四国の三つの地域の交流は困難だった。
 - b 山陽自動車道、中国自動車道、四国縦貫自動車道が開通し、東西の人々の交流が盛んになった。
 - c 本州四国連絡橋の開通で、瀬戸内地域の交流が盛んになった。
 - d 中国横断自動車道の開通で、山陽地域と山陰地域がつながり、南北の人々の交流が盛んになった。
 - e 東西南北を結ぶ交通網の発展で、都市間移動の時間が短縮されたことで通勤・通学が容易になった。
 - f 交通網の発展により、ストロー現象が起き、地方都市の商業に影響を与えた。
- B 瀬戸内海の海上輸送の利便性から、鉄鋼業や重化学業中心の瀬戸内工業地域が発展した。
- a 中国・四国地方の人口は瀬戸内地域に集中しており、人材の確保が容易であった。
 - b 瀬戸内海は内海なので、穏やかな海なので原材料・製品の積み出しがしやすい地域であった。
 - c 岡山県倉敷市や広島県福山市は製鉄所を作り、鉄鋼業が発展した。
 - d 山口県周南市や愛媛県新居浜市は石油化学コンビナートを作り、重化学業が発展した。
 - e 広島県府中町周辺ではマツダの自動車工業が集まり発展した。
- C 各地域で気候や自然環境を生かし、適した農業・漁業を発展させ、大都市に出荷している。
- a 山陰地域は、鳥取県のなしやらっきょうなどの農作物の生産が盛んである。
 - b 瀬戸内地域では、瀬戸内の気候の影響により、降水量が少ない影響でため池を作り、農業に利用している。
 - c 瀬戸内地域では、降水量に影響を受けにくい、レモンやミカン、オリーブ、ブドウなどの地中海性気候の地域でも生産されている農作物の生産が盛んである。
 - d 瀬戸内地域では、昔から降水量の少なさを利用し、伯方島などでの塩田が盛んである。
 - e 瀬戸内海は内海のため穏やかな海である点を利用し、広島県のカキや愛媛県のマダイなどの養殖漁業が盛んである。
 - f 南四国地域は黒潮の影響により温暖な気候を生かし、ビニールハウスを活用したなすやピーマンなどの促成栽培が盛んである。
- D 過疎化の進みが非常にはやく進むため、各地域で自分たちができる対策を講じている。
- a 中国山地・四国山地により山間部や瀬戸内海の島々では過疎化が進んでる。
 - b 瀬戸内の大都市に若者が移住してしまい、少子化高齢化が進んでいる。
 - c 観光資源を利用し、町おこし・村おこしを行っている。
 - d インターネットを活用した地域産業の発展を行っている。
 - e 過疎化による行政サービスの提供が困難になっており、今後の課題である。

【事実に認識の第1段階・第2段階】

瀬戸内海を中心にした地方で、三つの地域で様々な自然環境がみられる

- a 四国山地、中国山地が位置している。
- b 太平洋、瀬戸内海、日本海に囲まれている。
- c 山地、海によって三つの地域に分かれている。(南四国、瀬戸内、山陰)
- d 冬季多雨の日本海側の気候、年間少雨な瀬戸内の気候、夏季多雨な太平洋側の気候がみられる。
- e 九州地方と近畿地方の繋ぐ地方である。
- f 瀬戸内海には多くの島がある。
- g 中国地方と四国地方の往来のために様々な交通網がある。